

徳島大病院は4月から、出生前診断や大腸がんの遺伝子検査などの相談を受ける「遺伝相談室」を「臨床遺伝診療部・遺伝カウンセリング外来」に改称し、常勤のカウンセラーを県内で初めて配置した。遺伝診療の最新情報を患者に提供するとともに、患者と医師とのパイプ役を務める。

### 徳大病院に常勤カウンセラー

# 遺伝診療 スムーズに

常勤カウンセラーは1人で、遺伝のメカニズムや遺伝子検査の概要、遺伝性疾患の患者への支援について相談者に説明する。必要に応じて家系内の疾患の発生状況を聞き取り、スムーズな診断・治療につなげる。

遺伝相談室は1999年10月に設置。2015年度は約300件の相談があり、出生前診断をはじめ遺伝性乳がんや大腸がんの遺伝子検査に関するものが多かった。常勤カウンセラーはおらず、病院

## 最新情報を患者に提供

内の専門医5人ほどが兼務していた。

常勤カウンセラーを配置することで、ニーズの把握や心のケアが行いやすくなるという。カウンセラーは全国で182人しかいない。

臨床遺伝診療部の井本逸勢部長は「遺伝に関しても悩むことがあればぜひ利用してもらい、正しい情報を得てほしい」と話している。問い合わせは同外来へ電0888(633)9218へ。

(吉松美和子)